

認められています。豚熱ウイルスが、野生いのししを介して広がるのを防ぐため、2019年2月、農林水産省は、野生いのししに使用する経口生ワクチンを輸入し、いのししへの感染が確認された地域に限定して散布することを決定しました。

このワクチンを摂取したいのししが食用に利用される可能性があることから、2019年3月、このワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性について、農林水産省から評価が要請されました。

## 評価結果

この生ワクチンの概要は別記の通りです。

主剤の弱毒豚熱ウイルスC株は、強毒の野生株をウサギで420代継代することにより弱毒化させた生ワクチン株です。

豚熱ウイルスは、豚及びいのししを自然宿主とし、ヒトに対する病原性はないので、豚熱は人獣共通感染症と

みなされていません。

生ワクチンに含まれる添加剤等については、「動物用ワクチンの添加剤の食品健康影響評価の考え方」（2014年10月）に基づいて評価しました。その結果、使用状況、既存の評価及び本製剤の用法・用量を考慮すると、本製剤の含有成分として摂取した場合のヒトへの健康影響は無視できる程度と考えられました。

以上を踏まえ、本製剤が適切に使用される限りにおいては、本製剤を摂取したいのししに由来する食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えました。

### 別記：経口生ワクチン（本製剤）の概要

[主剤] 弱毒豚熱ウイルスC株

[効能・効果] 豚熱の感染予防

[用法・用量] いのししの餌場に本製剤約40個（1km<sup>2</sup>当たり）を土の中に埋めて設置し、いのししに摂取させる。

[添加剤等] 保存剤、誘引飼料等

### 豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20190312043>

## かび毒「デオキシニバレノール（DON）」の食品健康影響評価を行いました。

食品安全委員会は、厚生労働省からの要請を受け、食品の規格基準の設定のための食品健康影響評価を行いました。2019年12月、通常の食生活においては、「小麦由来食品からのDON（総和）の摂取による健康影響が生じる可能性は低い」とする結果をまとめました。

### デオキシニバレノール（DON）とは

DONは麦類の赤かび病の原因となるフザリウムというかびが作り出すかび毒の一種です。日本を含む世界の温帯地域で、主に小麦、大麦及びトウモロコシなどの穀類を汚染することが知られています。

## 評価結果

DONに汚染された穀類は、DONの生合成の前駆体である2種のアセチル体<sup>\*1</sup>、および代謝物である1種のグルコシド配糖体<sup>\*2</sup>にも汚染されている可能性があります。これらの物質の吸収、分布、代謝、排泄等の体内動態に関する知見から、これら3物質は口から動物の体内に入ると、体内で速やかにDONに変わることがわかりました。

そこで毒性評価はDONを中心にを行いました。

DONの毒性について、実験動物を用いた試験では、主に嘔吐、摂餌量の減少、体重増加抑制及び免疫系に及ぼす影響が認められました。また、遺伝毒性試験の結果から、生体内で影響を及ぼすような遺伝毒性を有する可能性は低いと考えました。そこで、マウスを用いた2年間の慢性毒性試験の結果をもとに、DONを摂取しても健康への悪影響がないと考えられる「耐容一日摂取量（TDI）<sup>\*3</sup>」を1μg/kg体重/日と設定しました。

次に、日本人のDONへのばく露量（摂取量）を推計しました。ここでは、上記のアセチル体等の3物質についてもDON濃度に換算し、それらの値とDON濃度とを合計した「DON（総和）」を算出しました。主なばく露源は小麦であると考えられたので、小麦中のDON（総和）濃度や小麦粉の摂取量等をもとに、日本人のDON（総和）の摂取量